

新 行 動 宣 言

世界は今、新自由主義と資本のためのグローバル化によって、格差と分断に覆われている。分配の不公平さによって生み出された紛争や戦争、貧困は、人々から日々の人間としての営みの意味をも奪ってしまった。また、中産階級の世界的凋落は、煽動的な言葉に刺激され、かれら以上に持たざる者達への排除や攻撃へと向かい始めている。それでも、あまりにも肥大化した金融資本経済は、理性なき野獣のようにとどまるところを知らず、さらなる格差と分断の中に私たちを落とし込めようとしている。規制の枠組みは、その効力をはっきりと失いつつあるのだ。

日本においても格差と分断は、大きく私たちの日常にその暗い影を落としている。子どもの相対的貧困率や大学生の奨学金問題、声高に叫ばれるヘイトスピーチや津久井やまゆり園での許されざる事件…。出口の見えないことへの徒労感と諦め…。

資本が海外へ逃げないために、世界一企業が活動しやすい国にすると為政者が発言するとき、それは、働く者にとっては、労働の意味や賃金、労働時間が限りなく無法に搾取されることでもあったのだ。経済が国家を超える姿は明確になり、政治はその目的を違えつつあると言える。そのため、格差や分断の問題は、巧妙に隠蔽され、異議を唱えることもできず、人々はただ窒息しない程度に息をしているだけなのかもしれない。

他方、日本は世界の中でもトップを切って縮小社会に突入した。だが依然として関東圏への一極集中はますます顕著であり、地方における地域経済とコミュニティの破壊は加速度を増している。地方と高齢者の切り捨てが、今はっきりと始まった。

熱に浮かされたように、それでも発展・拡大する社会を求める政治・経済の流れに、ゆがみはますます激しく、私たちが苦しめることになるだろう。

私たち Ed. ベンチャーは、教育支援グループとして、弱い立場に立つ子どもたちの支援に取り組んできた。それはある意味、現在の社会の中での「補完」的な役割を担うことであったし、また、分配に生じた誤差を再分配し直す取り組みであったとも言える。しかし、この数年の世界や日本の状況の変化を考えると、私たちは私たちの行動の原理を変えざるを得ないところに来ている。つまり、「補完」する立場から、「異議」を唱え、「提起」する立場へと移行するということである。

これからの社会が進むべき道を少しでも明確にしつつ、その視点から教育を、そして弱い立場に立たされている子どもたちをとらえ直していかなければならない。

- 1 Ed. ベンチャーは、成熟社会を目指し、競争的でない、多様性を認め、持続可能な社会を構築する視点から、教育や私たちの活動を見直します。
- 2 1の視点での実践や研究、支援を積極的に行います。
- 3 外国にルーツを持つ子どもたち、障がいを持つ子どもたち、貧困におかれた子どもたちへの教育支援を行います。
- 4 原子力発電への反対を表明し続けます。